

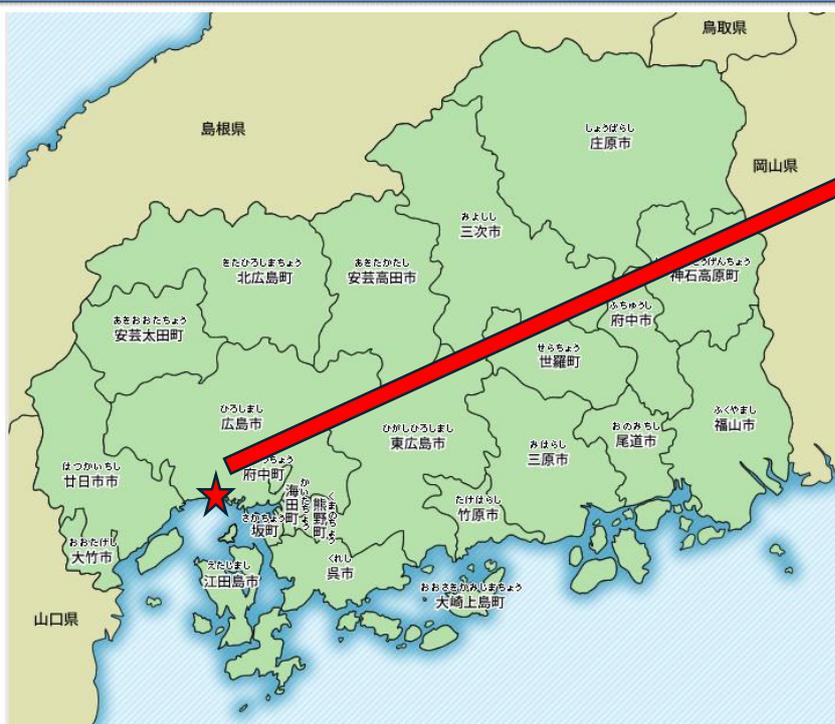
探究の学びを支える 学校運営協議会の取組

都市部から挑戦する地域学校協働

令和7年1月15日
広島県立広島井口高等学校
川中延晃



地域の特徴



所在地 広島市西区井口明神二丁目11-1

アクセス

広島電鉄宮島線 井口駅下車 徒歩5分
J R 山陽本線 新井口駅下車 徒歩15分



学校の概要①

本校は、子供たちの教育に対する保護者や地域社会の熱く大きな期待から、20万人にのぼる署名を添えた高校増設の請願により、昭和53年に設立された。校章には、「文化」を象徴する「たちばな」の三葉を配し、それぞれ「英知」「情操」「意欲」を表している。4年後に創立50周年を迎える。



公立の普通科高校

学年8クラス 計24クラス（県立高校では最大規模）

生徒数 936人

生徒のほぼ全員が大学進学を希望し、
約50%の生徒が国公立大学に進学

ローカル型コミュニティと テーマ型コミュニティについて



ローカル型
コミュニティ

ローカルな視点



テーマ型
コミュニティ

学校の特徴に対応した視点

都市型普通科大規模校として
本校の学校運営協議会における**地域の定義**

高等学校において一般的には

生徒の出身中学校の校区を併せたものなど

本校の学校運営協議会においては
「社会的**つながり**のある**地域全体**」

前任校（日彰館高校）と広島井口高校

	日彰館高校	広島井口高校
所在地	三次市（中山間）	広島市西区（都市部）
学校規模	6クラス	24クラス
学校運営協議会開催	年6回	年3回
学校運営協議会の役割	地域協働活動	学校評価
総合的な探究の時間の目標	地域探究	デザイン思考
地域との関わり	強い	弱い

※ 昨年度CSフォーラムでの発表にもあったように日彰館では地域学校協働に成果が見られる。

都市部でも地域学校協働が「井口らしく」、「井口だから」何かできるはず。

都市型普通科大規模校として
本校の学校運営協議会の目指す姿



探究



TEAMWORK

探究活動の充実を目指す都市型普通科大規模校と
学校運営協議会が

対等なパートナーとして生徒の探究を推進する。

教育目標

グローバルな舞台で社会に貢献するために、深く思考し、主体的に行動できる生徒を育てます。

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)

- グローバルな舞台で社会に貢献するために必要な資質・能力を育成します。
- 物事に取り組む基本姿勢や心構え（世界に通用する考え方や行動様式）を身に付けた生徒【Mindset】
 - 他者と協働し、課題解決や改善につながる合意を形成するための知識・スキルを身に付けた生徒【Knowledge・Skill】
 - ウェルビーイングを実現していくために、課題解決に挑む勇気・覚悟・自信を持った生徒【Leadership】

学校経営目標

本年度経営目標（抜粋）

自らの「探究活動」を語れる生徒を育成する。

「自分が今取り組んでいることは何のためなのか」、
「そのために自分ができることは何か」、
「それは社会とどのようにつながっているのか」
を生徒一人一人が深く考えられるよう指導する。

本校の学校運営協議会のテーマは
「探究活動の充実」です。

学校運営協議会の概要（R5）

学校運営協議会委員の構成（10名）

当該校の教職員	2名	学識経験者（大学教授）	1名
学校運営に資する活動を行う者	1名	地域住民	2名
保護者	2名	その他（小・中学校長）	2名

学校運営協議会の開催

5月、10月、2月の3回開催

内容は、学校評価に関する事項、学校状況の報告、意見交換が中心

学校運営協議会の概要（R6）

学校運営協議会委員の構成（8名）

当該校の教職員	1名	学識経験者（大学教授）	1名
学校運営に資する活動を行う者	1名	地域住民	2名
保護者	1名	その他（小・中学校長）	2名

委員の構成（8名）いわゆる**空き家**を作った。

現在、**探究コーディネーター**としての人材を募集中。

学校運営協議会の開催

5月、8月（CS校内研修会）、10月（探究中間報告）、2月（探究発表会）の4回開催

内容は、学校評価に関する事項、学校状況の報告、意見交換、

生徒の探究活動のアドバイス等

本校の探究のプロセス

目指す探究：

データ分析等の根拠に基づき、**実社会に提案する**ことで形にできる探究。

	データ分析	行動
A	実験、先行事例研究、統計分析、校内外のインタビューなどで集めたデータを効果的に使いながら根拠にしている。	実社会と繰り返し協働しながら、提案し、実現しようとする。
B	実験、先行事例研究、統計分析、校内外のインタビューなどで集めたデータを根拠にしている。	実社会に提案し、意見をもらいながら探究を進めようとしている。
C	ネットで集めた情報のみを根拠にしている。	理想でとどまっている。

探究活動への学校運営協議会の関わり

学校運営協議会研修会を開催

日時 令和5年12月

参加者 学校運営協議会委員（保護者、地域代表）、本校職員（希望者）、本校生徒代表（生徒会地域住民（案内を見て参加された方））

テーマ 井口地域の未来を考える

成果等 2グループに分かれて「井口地域の20年後の姿について」を想像しながら様々な考えが共有し意見交換を行った。生徒にとっては地域の歴史等を知ることができ、地域の人に高校年代の若者の考えを得る良い機会となった。



地域と連携した取組①

たられば防祭 9月21日(土) 10:00~16:00

防災のことについて前もって気づきを考え、行動することの大切さを学ぶ体験型のイベント

◆主催 **たられば防祭実行委員会** アルパーク/LECT/井口明神学区社会福祉協議会
広島工業大学/広島修道大学/広島市

◆協力 **広島井口高等学校** 他37団体



生徒会によるテレビPR出演



吹奏楽部による演奏(アルパーク)



生徒会執行部による体験会

地域と連携した取組②

イモほり体験 10月6日(日) 10:00~13:00

子どもを対象として、西区で収穫できる食を広く市民に知っていただくイベントを実施することにより、食に関して人や、食材・情報が行き交うにぎわいのあるまちづくりを図る。

◆主催 **広島市** (西区地域起こし推進課、西区地域支えあい課、経済観光局農政課)

◆協力 **広島井口高等学校**、井口社会福祉協議会、かじやま農園



広島井口高校を会場にした食についての学び



本校から約500mのイモ畑



本校生徒もお手伝い

探究の学びを支える取組①

C S 校内研修会

日時 8月20日

参加者 本校教職員、
学校運営協議会会長
(指導、助言)

テーマ 地域とともにある学校づくり
探究活動の進め方

成果 全員で取り組むことを再確認できた。
体制を再構築できた。
具体の探究活動をイメージし、共有
した。



探究の学びを支える取組②

第2回学校運営協議会 (探究活動中間報告)

生徒の発表

- ①土砂災害の被害を減らすために私たちができること
～3次元データを用いた災害被害の予測と警告～
- ②海洋ごみを減らす体験をデザインする







探究の学びを支える取組③

課題発見・解決力向上プロジェクト

日時 12月4日

参加者 1年生

受入先

(株)ニシキプリント等



探究の学びを支える取組③

コース	午前	午後
子育て	広島県子供未来応援課	ぽこぽこトレイン
牡蠣殻の再利用	広島県農林水産課	丸栄株式会社
外国人労働者	広島県商工労働局	広島大学教育学部
防災・減災	広島県砂防課	広島市豪雨伝承館
農業・食品	とれたて元気市	株式会社 山本倶楽部
教育心理学 スポーツ科学	広島大学教育学部第5類	広島大学教育学部第4類
環境	環境局施設部中工場	株式会社タイヨー
起業・経営	(株) 山陽タオル	(株) ニシキプリント 学校運営協議会委員



校内の改革について①

体制づくり (R5)

カリキュラム開発部からの提案

授業担当者



職員全員



校長からの提案

職員全員 × 学校運営協議会

探究活動推進チーム

国際交流や国際的なテーマに取り組むプロジェクトを推進。異文化理解や国際的な視野を養う活動を展開

世界とつながる班

探究環境整備班

探究活動をサポートするための講演や研修の企画・運営、探究環境の整備

探究活動を行う生徒

ACT-1担当者

探究活動全般を校内外に発信

探究活動発信班

地域・社会とつながる班

大学・企業・起業とつながる班

地域や社会の課題に取り組むプロジェクトを推進。学校運営協議会をはじめとする地域との連携や地域貢献活動を展開

大学や企業、起業家との連携プロジェクトを担当。大学や起業家のアドバイスや支援を受けながら、実践的な学びや起業体験や企業との連携を支援

探究活動推進チームによる探究活動の地域への広がりをイメージ

校内の改革について②

校長として

- ◆井口地域について理解を深め、新たな発見や課題意識をもつことによって、生徒に、将来何かの形で井口地域に貢献してもらいたい。【未来を創る】
- ◆教員は、本校の特徴であるグローバルとDXを基盤とし、生徒の探究活動の深化に取り組んでほしい。【探究】
- ◆探究活動の深化に当たっては、校内で完結するのではなく学校運営協議会や地域とともに進めること。【地域学校協働】

課題と今後の展望

【課題】

今回、テーマ型コミュニティに取り組んだ結果、**もっと地域の様々な人材等を活用させることができる**ことが分かった。どのように活用していくのかが課題。

【展望】

課題を解決するために、次のことに取り組みたい。

- ① 2名の空き家に、探究活動と地域を結ぶ**探究コーディネーター**の役割を果たす委員を選出する。
- ② 探究コーディネーターを含む学校運営協議会と**ともに探究活動を充実させる**。



ご清聴ありがとうございました。